

## 角栄君は全身これユーモアだね

対談者 タレント 中山 千夏

映画評論家 萩 昌弘

第二次田中内閣の外相時代に「週刊朝日」の「中山千夏・萩昌弘の巻談舌語」の第一回に登場したものの、中山氏は現在、作家、萩氏は昭和六三年死去。

よく寝てよく食べて外遊数万キロ

萩 わたくしが映画の批評家、中山さんも芸能のほうの方ですから、外交とか政治のことは、一切存じませんので……。

大平 ぼくは芸能は全然……。 (笑)

萩 それにしても、去年のスケジュールは、われわれから見ても、すごい。田中内閣の第一次組閣があつて、『日中』があつて、選挙があつて、それから今度はまた第二の組閣という……。

大平 昨年は、格別でした。春もなければ夏もない、まあまったく四季のないめちゃくちゃな一年でしたね。

萩 ずいぶん向こうへも……。

大平 何万キ口かを、消化した……。

荻 バテませんか。

大平 バテるひまがないんだ。

千夏 健康法があるんですか。私なんか時差の狂いだけで二、三日はポケツとしてしまふみたいなんですけれども。

大平 ぼくは乗り物は、あまり苦にならない。機上でよく寝るし、よく食つし。

荻 そのよく食い、よく寝るといふのは、ふだんの健康法でもあるわけですか。

大平 そうですね。

千夏 いままでいらした中で、一番印象に残つてるところといふのは。やっぱり、中国ですか。

大平 中国ですね。私は、三十年余り前、戦時中行つたことありますけれども、すっかり変わつてましたね。まず、単色の世界ですよ。全然色のない、男も女も同じ服装しているんですよ。

千夏 ほう、このごろスカートがだいぶ出てきたなんて聞いたけど……。

大平 いや、ぼくは見なかつたな。

千夏 やっぱりみんながズボン？

大平 ズボンでしたな。きわめて退屈じゃありませんか、あれ。

千夏 あのとときはテレビで中継見てたんですけど、日本みたいにヤジ馬がいないですね。

大平 日本の雑踏というのは、ムンムンしたある種のふん困気がありますけど、中国といふところは、非常に冷静といふか、なんとなく落ちついてるといえば落ちついていて、活気がないといふは活気がない。生存競争なんてない世界じゃないかな。

荻 あんまり日本がせっかちだから、そういうた平靜なムードというのは、何かあこがれのよう  
な気がしますが……。

大平 二日や三日はいいけども、しばらくするとまたムンムンした世界がいいんじゃないですか、  
みなさん。

ぼくに「うまいもの」は フタに真珠 でね

千夏 レセプションのとき、お料理がいろいろ出てたけど、あれはどういうものだったんですか。

大平 たいへん吟味して、日本人の口に合うような淡泊な味にして、ともかく料理の国ですね。

荻 考えてみると、大平さんは日本人の中で、一番うまい外国料理を、一番たくさん食べていら  
っしゃるわけでしょうね。

大平 フタに真珠でね。(笑) ぼくにいいものを食べさせても、ようわからんよ。(笑) デリカシー  
が……。

荻 どこのお料理が、一番お口に合うとお思いになりましたか。

大平 その国の性、ま、テイストというかな、そういうものにデリカシーを感じる民族と、そうで  
ないのがあるんですね。

荻 ありますね。

大平 この間、モスクワに滞在したけど、ロシア料理は、おいしいと思わないね。何か非常に粗野  
になった感じ……。

荻 外務大臣へのごちそうが粗野じゃ、あとは推して知るべしですね。でもたとえは中国でも、絶えず首脳部と乾杯を繰返しながらお食事していらっしゃる。どうですか、どこの国へいらしても、平然と食事をとれるほうですか。

大平 できるだけその空気に溶け込んでやったほうがいいと思っていますよ。どうせ足が長くなるわけでもないし、(笑)色が白くなるわけでもないし、洗練されたマナーを身につけているわけでもないし……。

千夏 あんまりシャレいたりはいないんですか。

大平 たまにはありますよ。

荻 向こうのリーダーたちの人づき合いの感覚とか、もてなしの感覚なんかはどうですか。

大平 ぼくは、日本人が一番下手だと思うね。日本人はもっとも外交的でない民族じゃないか。

荻 大平さんご自身は、どうですか。

大平 ぼくもそう思う。外交的でないものの外交。じつにユニークなものだね、(笑)そのままおしたらいいんじゃないでしょうか。田中角栄くんなんかもそうですね、まったくよく飲み、よく食い、よく寝て、よくしゃべりますよ。ぼくは北京でもいったんだけど、きみは北京に休養にきたんじゃないかというて……。 (笑)もう天衣無縫、いってることあんまり論理的でないんだ。(笑)しかし、そのほうがぼくは、向こうにはウケたと思いますよ。まったくつけ入るすき間もないようなことをいわれたんでは、面白くないですよ。非常に、氷が張ったような何ともならん事態が、一片のユーモアで解けちゃうっていうようなときありますからね。

荻 確かにそうですね。

毛さんは天衣無縫 角栄といい勝負だ

大平 田中総理なんて、全体がユーモアだよ。(笑)だからあれはぼくは、非常に役立ってると思いますよ。ごく自然だし、あれがカッコつけても始まらないのでね。中国では彼は自分を捨ててかかったと思うね。だからもう利害得失とか、毀誉褒貶きよほうへんとかいう邪念から解放されて、おれはこれだけ、それ以上のものでも、それ以下のものでもない、これでおれはぶつかって、砂に頭突っ込んで参っちゃったらやむをえないじゃないか、というくそ度胸が決まっておったんじゃないか。

千夏 いままでたくさん世界の有名な政治家にお会いになって、一番これはすごいなとお思になったのはどなたですか。

大平 それぞれ柳は緑、花は紅で、みんな違うんですよ。それぞれ非常に個性的だと思うな。ですからドゴールさんにはドゴールさんの味があつて、毛沢東さんには毛沢東さんの味がある。

荻 とくにドゴールとか毛さん、現在ではもっとも伝説的な人物ですけど、じかにお会いになって、感じは……。

大平 毛沢東さんは、非常に村夫子という感じね。理屈はいわんし……。  
荻 やはり天衣無縫ですか。

大平 天衣無縫、もう田中角栄といい勝負だ。(笑)全然かまえてない、英語でいうと、ディスプレイングっていうやつだな。ドゴールさんなんかにも、そんな味があるね。

荻 毛さんにお会いになって、威圧されるような感じっていうのは……。

大平 全然しない。非常にソフトな感じ。

千夏 周さんは、どうですか。

大平 周さんっていう人は、世界第一級の政治家であり、外交家だね。それでいてけっこうユーモアもあるし……。

千夏 ヘー。

大平 なかなかの人だと思うな。けれども、毛沢東さんと並んだところを見ると、とてつもなく毛沢東さんのほうが大きく見えるんだよ。何でそうなるかよくわからんけど、あれは一種の位取りが違うんじゃないかな。

千夏 政治家っていうもののあり方って、国によって少しずつ違うような気がしますね。たとえばアメリカなんかだと、政治家のプライバシーみたいなものが、すごく影響してくるでしょ。ちよつとスキャンダルがあったりすると、たちまち失脚してしまふ。

大平 うん、プライバシーか……。 (笑) 全体主義国家では、あまり問題にならない。しかしデモクラシーの世界では、日本やって、アメリカやって、スキャンダルというのはこわいですよ。週刊誌に大きな活字で書かれたりしたら、致命傷だよ。(笑)

千夏 大平さんは、そういう点では、非常に身辺きれいにして……。

大平 いやア、わたしだって木石<sup>はくせき</sup>じゃなし、あんた、人並みですよ。(笑)

荻 木石でなくて、しかもきれいにしておくっていうのは……。

大平 神さまや仏さまじゃないんだが……。 (笑) ただ、自分の行動半径を踏みはずしちゃうとだめですね。自省<sup>ひんやう</sup>というか自戒<sup>じけい</sup>というか、そういう要素は、ほくは政治家に絶対必要だと思つな。「俯仰<sup>ふびやう</sup>天

地に愧<sup>は</sup>じす」なんてそう偉ぶるつもりはありませんけど、人並みはずれていないんだというところは心得ていないと、みなさんすぐ見てとりますよ。

千夏 政治家っていう職業は、かなり普通の職業とちよつと違つみただなあ。

大平 それは普通の職業よりきびしいですよ。みんなの信頼を長くつないでいこうとすれば、それだけの努力をしなければならぬ。

政治というのは万人の仕事です

荻 でもわれわれ外側から見ると、政治っていうのは、一つ特別な垣根の中で行われている……。

大平 そんなことないですよ。政治というのは、万人の仕事だと思つんだ。職業政治家というのは、国の予算をつくるとか、法律をつくるとかの任務を帯びた政治の一面面をやっているにすぎない。あなたも政治やつてる。それが一つのコースになる。そのコースが厚みを持つておれば、日本は安泰じゃないでしょうか。それがコースでなくて、不協和音が多くて、ガチャガチャがなり立てて、全然まとまりがないということになると、日本はめっちゃめっちゃだ。

荻 でも、ここ二、三年の日本の、ことに若い人たちが揺れ動いたのは、いわば政治に不協和音を感じたからだとお思ひになりませんか。

大平 一つ、時代の病つていうもんじゃないですかね。日本ばかりじゃない、世界全体がそうですわね。資本主義国ばかりじゃなく、社会主義国もそうですし。この病は政治のあり方とか、教育のあり

方とか、経営のあり方とか、マスコミのあり方とか、いろいろなことに触発されて表に出ちゃう。その触媒をできるだけつくらんように、お互いに苦勞すべきですね。

荻 また、それをやるのが職業政治家の一つの使命でしょうね。周さんを第一級の政治家とおっしゃいましたが、第一級の職業政治家の資格の根本というのは……。

大平 そうね、わたしはよくわからんけれども、周恩来さんは自分をまず民族のためにささげているんじゃないかな。非常に勉強して、正確な情報知識を豊富に持つて、それをうまく整理して、ちゃんとバランスをとつた判断を絶えずしておる。そして自分の同僚部下をまず尊敬しておる、評価しておるといふか、立場を認めておるといふか、理解をしてるとか。その中に一本図太く貫いているのが、勇気じゃないかという感じがするんだ。

千夏 それは決断……。

大平 田中くんという「決断と実行」だよ。(笑)

千夏 田中さんは、その条件の一つを満たしているわけですね。(笑)

荻 これはいいことを伺いました。自分のからだを民族にささげることと幅広い勉強と、人を立てる、尊敬する、それから勇気ですね。この四力条が第一級の政治家の資格。

大平 それからやっぱ健康、肉体的な健康と、精神的な健康と両方あるね。

千夏 なかなかそうするといないんだろつね、第一級の政治家つていふのはね。(笑)

荻 若い人との接触の機会なんていふのは、ありますか。

千夏 どうですか、いまの若い人つて……。

いまの若者に足りないものは謙虚さ

大平 ほくらの若いときと比べて引つ込み思案でないところは、いいと思うな。けれども、足りないものは何かというと、謙虚さじゃないかな。卑屈になれという意味でなく、自分はまだ未完のものであるという意識を、持ったほうがいいんじゃないかというような感じがするね。しかし、もう背は高くなったしね。(笑) なかなかきびきびと明るくやってのける。こんどの選挙で見えても、わたしが初陣で立候補したときなんかと比べると、ずつとつまいね、やるね。(笑) 非常にアクティブで、なかなか気のきいたことをいうんだもの。(笑)

荻 気のきいたことをいうっていう点では、大平さん、定評があるんじゃないですか。

大平 ほくは元来シャイなほうだから、よういえなかった。ものをいうのが恥ずかしくて……。とても内気だったんだな。

荻 その内気な方が、なぜまた政治に飛び込まれたのですか。

大平 政治家というのは、あまり時間の拘束がなくて、ひまじゃないかと思っただよ。なってみたら、そうでない。(笑)

千夏 計算違いで……。 (笑)

大平 計算違い。ワツハハハ。

千夏 そうすると、小さいときから政治家になりたいとかってという夢は？

大平 全然ない。まあ中学校の先生ぐらいになりたいなと思っただけ。

千夏 そうですが、そうするともうほんとに運命で……。

大平 運命で。

千夏 よかったですか。

大平 よかったか、どうかな。(笑)

千夏 でも、自分がバツと動くことで、世界情勢が変わるっていうことは、かなりいい気持ちじゃないかなと思うんだけど。

大平 いい気持ちどこじゃないな。骨が折れる仕事ですよ。

千夏 見ているほどのことはないのかな。(笑) 奥さんも、たいへんなんですってね。

大平 うちの家内ばかりじゃなく、政治家のどこの奥さんもそうでしょうが、最初から政治家に嫁入るつもりなかったわけだ。それでもやっぱり選挙その他やらなきゃいかんから、女のほうが一生懸命になりますよ。日本は、女性のほうが偉いんじゃないか。(笑)

千夏 どうしてですか。

大平 表向き男性社会だけど、実際は女性のほうが、シンがしっかりしているように思うね。

荻 そういつい方で、奥さんに点かせいでいらっしゃる。(笑)

千夏 荻さんも、そういう経験があるんじゃない。(笑)

嫁にもらつたらやはり日本の女性

荻 奥さんは政治家の妻であると同時に、外務大臣の夫人として、国際的なこともおやりにならなくちゃいけないわけでしょう。

大平 在京大使夫人を、お茶の会に呼んでみたり、食事にお呼びしてみたりするような仕事はして  
ますよ。だけど外交政策がどっち向いているか、それはわからない。

荻 そういう点では、日本の女性と外国の女性と、どっちが偉いというふうに？

大平 ぼくはやっぱり、嫁にもらうとすれば、日本の女性をとるね。外国の女性がおれの嫁さんにな  
るとしたら、ちよつと躑躅しゅうしゆくするね。(笑)

千夏 かなり向こうの奥さんっていうのは、積極的ですか。

大平 積極的ですね。一緒に食事とかパーティーでも、三倍か五倍ぐらい、向こうのほうがしゃべ  
るわな。(笑)

荻 大平さんは、外国の外交官夫人と会話なさるのは得意ですか。なにか、中年以降の女性には  
ウケがいいという……。

大平 どうですかね。(笑)

荻 若い女性にはもつと評判いいのかもしれないけど。(笑)

大平 このごろ、女のほうが有権者が多いでしょう。でも女性っていうのは、論理的じゃない、情  
緒的なんですよ。あんまりかわいた論理じゃいけません。だからぐつとくる何かないといかん。

荻 ハートをつかむという……。

千夏 口説くときと同じみたいな感じ。(笑)

大平 口説くまでいかに。(笑) その前しよう戦だな。

千夏 こんどの選挙で、共産党の進出、どういっわけだと思いにありますか。

大平 あれだけ日常活動を展開しておったのだから……不思議じゃないと、ぼくは思いますよ。

荻 その日常活動自身については、どうお思いになりますか。

大平 共産党というのは、たんへんな印刷・出版企業体みたいなもんだな。それに庶民の日常の要求、税金その他の問題をすぐ取上げていく……。弁護士の人が多いわな、たいへんな努力をしておったんじゃないでしょうかね。ですから五百五十万票とったということは、不思議じゃない。自民党はじめほかの政党も、そういう点は字ばなきやいかん。ぼくは、共産党という政党が、よくわからん。西洋流の社会民主党的な政党なのが、それとも革命政党なのが、あれよくわからんですよ。勉強しなきゃいかんと思うんだ。

荻 一つこれを伺いたかったですけども、外務大臣の体験が一番多い大平さんは外務大臣におなりになってよかったというふうにお思いになりますか。

大平 外交のエキスパートになったと思いませんけど、日本人というのは、非常に外交問題好きね。それでいて日本人自体、もっとも外交的じゃない、そういうアンバランスの中で、外務大臣をやらなきゃいかんから、骨折れるよ、ほんとうに。(笑)

マスコミは「きめてかかる」感じで

千夏 あたしなんか下のほうにいて感じると、タイの日本商品ボイコット運動とか、評判悪い国が日本でしょ、大臣としてはどういふ感じですか。

大平 エコノミック・アニマルで結構だと、ミリタリー・アニマルでないから大いにやってくださいという評判もあんだヨ。日本人は非常に直線的にものを判断するね。とりわけ女性は……。(笑)

千夏 しかし、このごろミリタリー・アニマルのほうにも近づいてんじゃないかっていう危険もあるんじゃないですか。

大平 いや、こんなものまだミリタリー・アニマルなんていえたもんじゃない。

荻 そのイメージを修正するっていうか、解消していただくのは、大平さんのお役目ですからね。

大平 われわれ自身も努力するし、あなた方マスコミも、あんまり一面を強調されすぎますとね。

千夏 マスコミは、やっぱり偏向してますか、いま。

大平 偏向というか、見出しをどうとるかということになるよ、何か非常にぼくがいうようにあいまいにならないわな。(笑) だからきめてかかる感じになる。

荻 われわれ日本人の大平流のあいまい的な表現を、もう少し身につける必要があるわけですね。

大平 八八……。

千夏 最後にお伺いしたいんですけど、ことは日本にとってどういう年になりそうですか。

荻 世界にとってもですね。

大平 去年に比べては、落ちついた年じゃないかな。ことし日本はあまり世界を睽目どまさすような外交をやるうと思わん。すこし静かな年になるようにしたい。去年はずいぶんフロシキ広げたから、ことしは少しじっくりと地固めしてやっていかないといかんじゃないですかね。いつも舞台に出て、舞いを舞うわけにいかん。

荻 じゃ、ことしは大平さんも落ちついた日程が組めそうです……。

大平 静かな……。 (笑)

(昭、四八・一・一四)